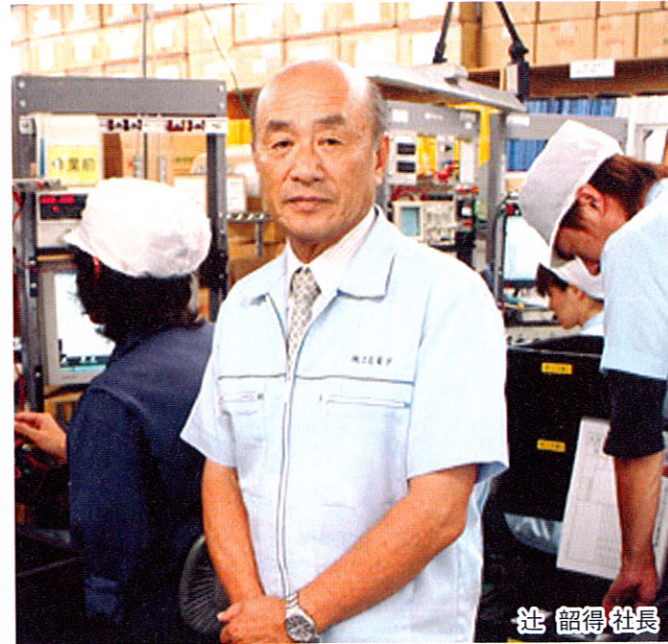




有限会社 恵比寿電機

本社：〒781-1103 土佐市高岡町丙266-3
代表取締役：池 龍美
布師田開発センター：高知市布師田3992-2
Tel&Fax：088-845-8650
URL：http://www.ebisu-denki.com/
資本金：800万円
従業員：4名
事業内容：マイコン応用電気機器の設計、試作販売
トピックス：香川大学工学部の人工衛星プロジェクト（Stars）に参加し、電子制御系に採用されている。



株式会社 土佐電子

本社：〒781-1102 土佐市高岡町乙61-10
代表取締役社長：辻 昭得
Tel：088-850-2600 Fax：088-850-2601
URL：http://www.tosadenki.co.jp/
資本金：5,000万円
従業員：280名
事業所：高岡/高知西/高知南/春野/東/徳島工場/ベトナム
事業内容：電子部品及び電子回路基板加工・組立・検査、液晶表示機器の組立・検査制御盤の設計・組立、新製品の研究・開発等

恵比寿電機は、平成13年に立ち上げた時、地元の高岡町に会社を立ち上げた。池社長は、土佐電子に挨拶にいった。そのとき基板の検査治具の仕事をもらい、それ以来の付き合い合という。そして、今までの、土佐電子が取り組んだ紫外線センサーの評価の試験回路も恵比寿電機がやってきたこともあり、単なるボード屋さんとの関係ではなかった。

土佐電子と恵比寿電機のきつかけ

恵比寿電機の池社長は、平成13年に立ち上げた時、地元の高岡町に会社を立ち上げた。池社長は、土佐電子に挨拶にいった。そのとき基板の検査治具の仕事をもらい、それ以来の付き合い合という。そして、今までの、土佐電子が取り組んだ紫外線センサーの評価の試験回路も恵比寿電機がやってきたこともあり、単なるボード屋さんとの関係ではなかった。

土佐電子は、変化のスピードがはやい電子部品産業にあって、徳島の日産電子との連携、ベトナムへの進出と、今まさに期待されているグローバル中小企業の取り組みを行ってきたモデル企業だ。そしてそれだけではなく、地道に自ら開発できる体質を目指し、技術体力を磨く投資も怠らずに進めている姿がここにあった。

全オムニロボットと土佐電子

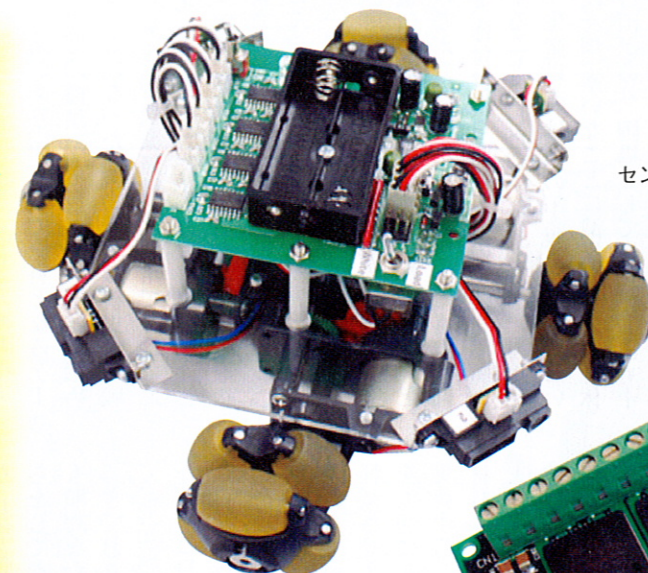
方位に移動できる仕組みは、二足歩行か4輪のオムニロボットの駆動システムしかなく、オムニロボットは、次世代の移動システムと期待され、アメリカではマイクロソフトが出資して会社を立ち上げつつある。土佐電子のオムニキットは、国内でも、全国の大学の研究室や企業研究所から様々なリクエストがあり、8割方の研究室等にも納品され、実は、自動車系の研究室にも納入されている。しかも、このオムニロボットの分野を日本でやっているのは、高知工科大学の王教授を起原とした流れにより土佐電子と相愛で事業化されている分だけしかない。

土佐電子は、変化のスピードがはやい電子部品産業にあって、徳島の日産電子との連携、ベトナムへの進出と、今まさに期待されているグローバル中小企業の取り組みを行ってきたモデル企業だ。そしてそれだけではなく、地道に自ら開発できる体質を目指し、技術体力を磨く投資も怠らずに進めている姿がここにあった。

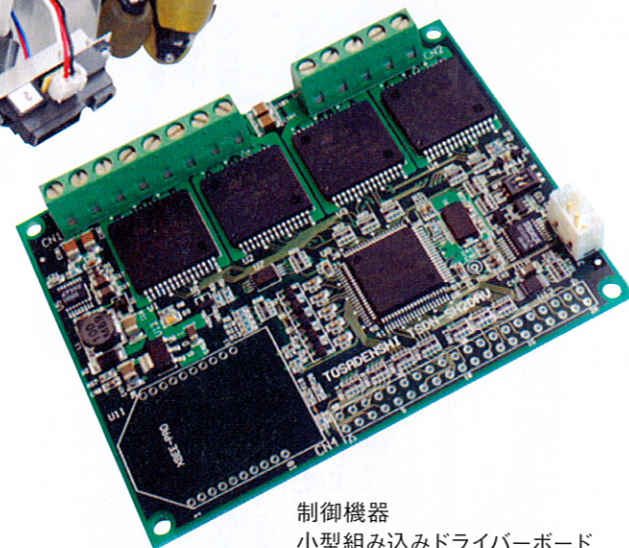
オムニロボットと土佐電子

方位に移動できる仕組みは、二足歩行か4輪のオムニロボットの駆動システムしかなく、オムニロボットは、次世代の移動システムと期待され、アメリカではマイクロソフトが出資して会社を立ち上げつつある。土佐電子のオムニキットは、国内でも、全国の大学の研究室や企業研究所から様々なリクエストがあり、8割方の研究室等にも納品され、実は、自動車系の研究室にも納入されている。しかも、このオムニロボットの分野を日本でやっているのは、高知工科大学の王教授を起原とした流れにより土佐電子と相愛で事業化されている分だけしかない。

有限会社 恵比寿電機



センサー付きオムニキット



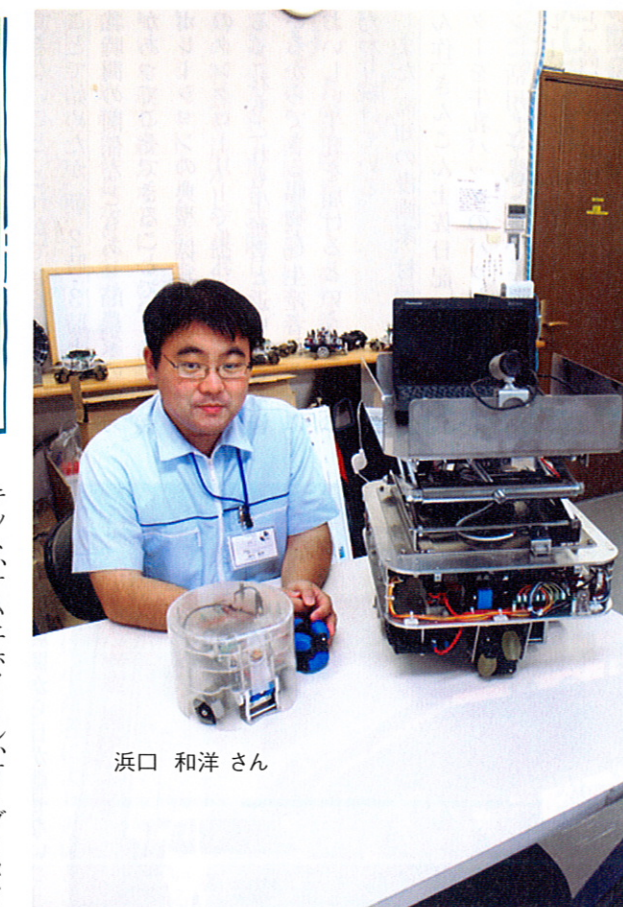
制御機器
小型組み込みドライバーボード

株式会社 土佐電子

平成15年に、土佐電子の辻社長から「うちへ来ないか？」と誘われ、同社に入社し、開発部のリーダーとして、オムニロボット開発のための合資会社を立ち上げたことがある人。

浜口さんは、高知県の事業の「ヤングベンチャー」事業に採択され、院生の当時ロボット開発のための合資会社を立ち上げたことがある人。

オムニロボットが生まれた



浜口 和洋さん

キット、オムニホイール、オーダーメイドロボット等を開発するビジネスに取り組み、土佐電子にロボットビジネスを持ち込んだ人だ。

弱いところは他者と組む

だ、浜口さんは機械系の制御が専門。ロボット開発には、基板に組み込むマイコンのソフトウェア等電子制御の技術の助けが必要だった。そこで、浜口さんは、平成15年にメカトロ協議会で巡り合った、有限会社恵比寿電機の池龍美社長と制御技術について組んでやってきた。

土佐電子の開発部がやっているオムニロボットのビジネスの面白いのは、特別に会社から研究開発費をもらっている訳ではない。全て外部からの開発費で賄っている。つまり、大学の研究室から「〇〇なものを作って」という依頼から